

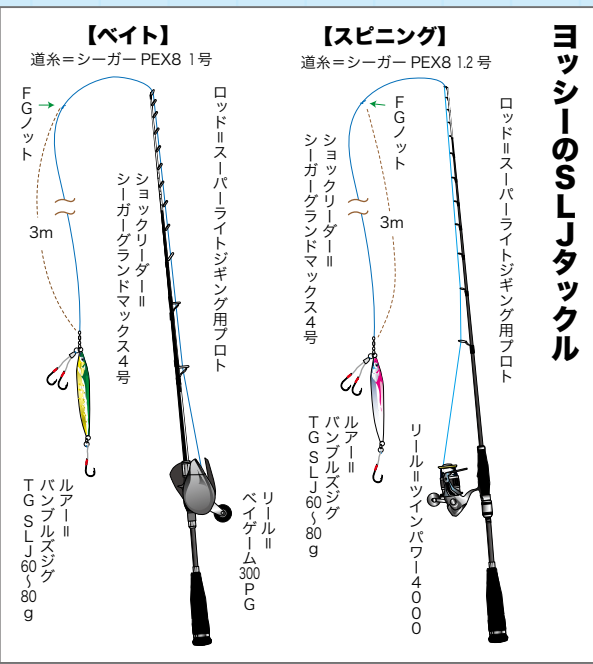
#Prepare タックルの方程式

自由な発想+ライトタックル=SLJ

●最近SLJも人気の釣り物として定着し、専用ロッドも多くリリースされるようになった。専用ロッドは扱いやすく、軽いジグのコントロールも容易。シャクったときのアクションもナチュラルで、よくできている。でも、ビギナーさんにも楽しんでほしいオレとしては、あえて「なんでもOK」と言いたい。シマノ2500~4000番程度のスピニングリールに適合するなら、竿はライトゲームロッドやバスロッドなど、とりあえずあるモノを使ってほしい。SLJで使うジグは軽いの、最近はおもともとの動きがいい。フォール中心でも十分食ってくるので、あまり気負わずに、まずあるモノでトライ! なお、オススメは意外にもベイトタックル。「落とすだけ」でも釣れるから、ビギナーさんでも無理なく遊べる。



◀しっかりと曲げてファイトを楽しみたいのであればSLJの専用ロッドがおすすめだ  
▼船下ヘジグを落として探るならベイトタックルが使いやすい



ヨッシーのSLJタックル

#Prepare ルアーの方程式

優先順位=重さ>形状>色

●SLJで使うジグは40~80グラムが中心。潮の流れ方やポイントの水深は日によって異なるので、重さは幅広く用意しておきたいね。外房では深場のポイントを選んだり、潮がカッ飛んでいることもあるので、100グラム超も用意しておくこと安心だ。広布号では船内でオリジナルジグの販売もしているから、手持ちのジグが合わないときやロストしたときは船長に相談を。ショップでは様々な色や形のジグが並んでいて悩ましいが、最初のうちは欲張らなくてOK。色はアビール系とナチュラル系の2パターンがあればいい。シェイプは最近細身が流行してるけど、幅広いのロー系ジグが当たることも多いから、こればかりはお好みでいいよ(笑)。最近はいいアクションをするジグが多いから、自分の感性にマッチしたものを選ぶ。そろえていく際の優先順位は、重さのバリエーション、次に形状、そして色かな。底が取れないと釣りにならないからね。



●バンブルズTG SLJはフロントフックに専用ネクタイを装備。高いアビール力を発揮

メタルジグ

▲潮の速さやポイントの水深……。あらゆる状況に対応しようとするジグの数は増え、タックルボックスはズッシリ。まずは重さのバリエーションをそろえることを優先しよう

<p><b>weight</b> 重さ</p> <p>40g 60g 80g</p> <p>▲軽いジグは探れる層が幅広いが、SLJは底を取ることが重要。まずは重めのジグから</p>	<p><b>shape</b> 形</p> <p>バンブルズジグ TG SLJ ラスパティーン</p> <p>▲波動が小さいスリム系は食い渋り時に、アビール力の強いワイド系は高活性時に効く。当日はスリム系が活躍した</p>	<p><b>color</b> 色</p> <p>ナチュラル系(シルバー系) アビール系(ゴールド系)</p> <p>▲派手、ナチュラルの2パターンがあると、様々な天候や海況に対応できる。当日はどちらが有利、といった差はなかった</p>	<p>▲アワビ貼りのオリジナルジグを船内で2000円より販売している</p>
--	---	--	--

多彩! 賑やか!

連載  
吉岡進の  
新世代  
沖釣り方程式  
第5回

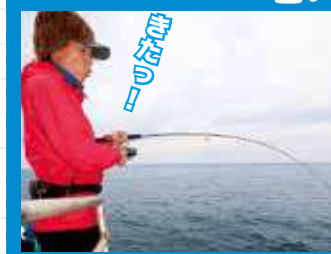
秋の外房SLJ

●今、釣り人たちの間で熱く盛り上がっているスーパーライトジギングをヨッシーが楽しんだ。舞台は外房大原。「一攫千金」の大物がヒットする可能性もある海だけに、ドキドキの半日となった。



先生◆よしおか すずむ  
愛称「ヨッシー」。ジャッカル・ソルトプロスタッフであり、クレハインストラクターも務める。「こんなに釣りしなかったことはない」というほど長い自粛期間を経て、最近コロナ禍の様子を見ながら細心の注意を払いつつ釣行をリスタート。沖で、陸っぱりで、釣りができる喜びを噛みしめる日々。  
生徒◆たかはし ころ  
幼稚園のころから沖釣りをしているはずなのに、いつまでたっても上達しない「永遠の初心者」。釣りそのものより海に浮かんでいることに喜びを感じている様子で、うまくなる気配なし……。

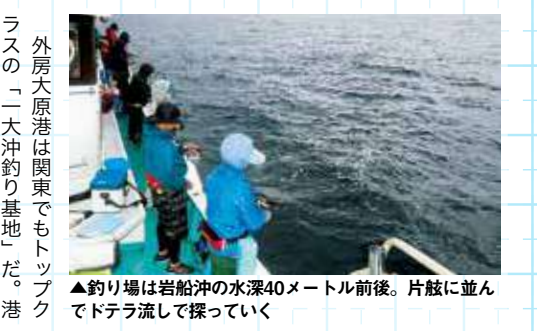
#Target & Game guide 色いろなターゲットが狙える“簡単釣法”!



●魚種が多様な外房の海だけに、何が食ってくるか分からないのがSLJの魅力。フィッシュイーターの青物狙いが中心だが、最近ではイサキもターゲットとして注目されている。基本的には底付近の根魚と、宙層の青物を狙う釣り。自由度が高い釣り物だから、釣れる魚を釣るスタイルでもいろいろ、「今日は青物」「今日は根魚」「今日はマダイ」などあえてセルフ縛りを設けても面白い。



ンケンで釣り座を決め、午前6時に出船。  
ターゲットは、釣れる魚。青物、根魚、なんでもこい、だ。スピニングタックルに60グラム、ベイトタックルに40グラムのジグを装着したヨッシーは、まず海のコンディションを把握する。  
「雲が厚くて空はあまり明るくない。潮は澄んでいて、流れはあまりないな……。」  
海に出てみると様子が変わらないからジグはたっぶり用意したけど、ジャッカル・バンブルズジグTG SLJの40グラムと60グラムで十分カバーできるね。  
ただ……あまり活性は高くないさ。そう。厳しい戦いになるかもね。」  
岩船沖のポイントには、水深40メートル前後と決めて深くない。軽いジグでも十分に底が取れるし、何より体にラクだ。ビギナー、女性に限らず、おっちゃんにも優しいSLJなのである。  
ヨッシーは底から10メートル程度をゆっくりとしたアクションでネチネチと探って根魚を狙う。そこから表面までは通常のワンピッチジャーク。1秒で1回転程度のリールで青物を誘う。底狙いと宙層狙いの二段構えだ。  
「ジギングは基本的に回遊魚がターゲットだから、群れに当たるまではアタリがない時間帯も多い。根魚はそこにいれば食ってくれからね。二層に分けて考えれば、そこが魅力だね」



▲釣り場は岩船沖の水深40メートル前後。片舷に並んでトラ流して探っていく

#Report ヨッシーの実釣レポート

シブいながらもウマイ魚が顔を見せてくれた!

●船中を見渡すとビギナーらしき方が多く、とてもいいことだと思った。SLJの流行でジギングのハードルがどんどん下がって、新しく始める方が増えるのはホントにうれしいね! 肝心の釣りはシブめ(笑)。散発的にイサキ、ホウボウ、そして珍しいマサカフグが釣れたけど、パターンを見出すほどアタリの数はなかったな。サバの群れに当たったときは船中が盛り上がったね! オレもサバを釣って一応は四目を達成できたよ。今回は、途中でオレがワンピッチジャーク、ゴーさんはただ巻きと役割分担してみたけど、とくに差は見られなかった。つまり、チャンスは平等ということ。「腕に自信がないから」と遠慮せず、ビギナーの方もどんどん挑戦してほしい。

▶かなりパワフルな引きで楽しませてくれたのはホウボウでした!



▲黄色っぽいのにアオハタ。とてもウマイ魚だ

▲体高のあるサンバクは最高のターゲットだ  
▶サバの群れに当たり船中は大フィーバー!  
◀船長の息子さん・大威翔(たいと)くんはカサゴも

#Solution 外房SLJの解

アタリ数=確信。今回はパターンつかめず

●SLJのセオリーどおり、底ネチネチ+宙層ワンピッチジャークの組み合わせで攻めてみたけど、潮が緩くて魚の活性はもうひとつ。ポロポロと多彩な魚種を掛けることはできたけど、正直言ってヒットパターンを見付けるまでには至らなかった。逆に言えば、それでも何かしらのアタリがあって半日楽しめるのがSLJの魅力なだけだね。とかく敬遠されがちなサバも、SLJでは絶好のターゲット。元気たっぷりな群れに当たったときは何をしても釣れる状態で、これまたパターンという感じじゃなかった(笑)。ヒントは、とにかく底を取る。風まか

せで船が動くドテラ流しでは、着底が分からないとただひたすらラインが出ていってしまう。外房でのオススメは80グラムほどの重めのジグから始めて、着底が分かれば徐々に軽くしていくこと。ジグが重いジャーク後のフォールスピードが速く、想像よりも狭い層しか探れない。

▶注目を集めたのがヨッシーが初めて釣ったというマサカフグ。ナニが釣れるか上げるまで分からないのがSLJの魅力。まだ見ぬ魚との出会いがある

▶沖揚がり直前のサンバクでクライマックスを迎えたタカハシゴー。SLJはビギナーから経験者まで夢中で楽しめる

#船宿インフォメーション

外房大原港 広布号

☎070-3526-1091  
(詳細は巻末の情報欄参照)

- 料金=SLJ 予約乗合一人1万1000円(水付き)
- 備考=午前船5時、午後船11時半集合。レンタルタックルあり

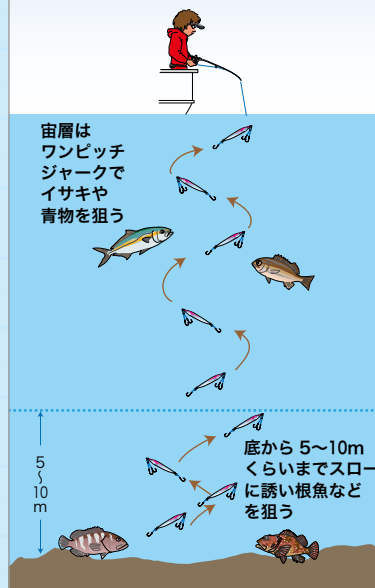


▲フロントはフラットデッキで釣りやすい

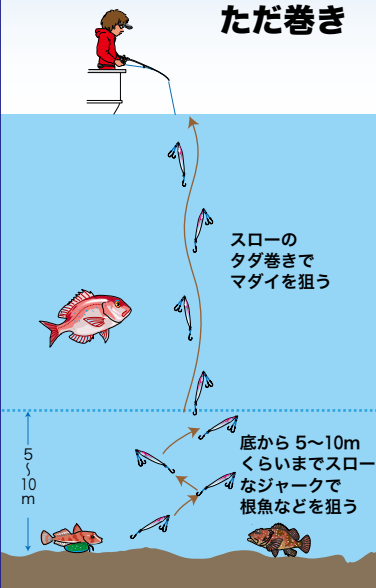


●外房・大原で気軽なSLJを楽しませてくれる広布号。SLJの普及に積極的な野島幸一船長は、もちろんビギナー大歓迎。細かく流し変えてくれるのでやる気を維持できるし、ていねいなアナウンスで状況を伝えてくれるからとても釣りやすかった。ドテラ流しで片舷にしかお客さんを入れないので、オマツリもしづらい。「楽しく釣ってもらいたい」という船長の思いが伝わってくるのが、釣り人としてはサイコーにうれしいよね。広いキャビンも備えた大型船は快適そのもの。ぜひ一度足を運んでほしい船だ。

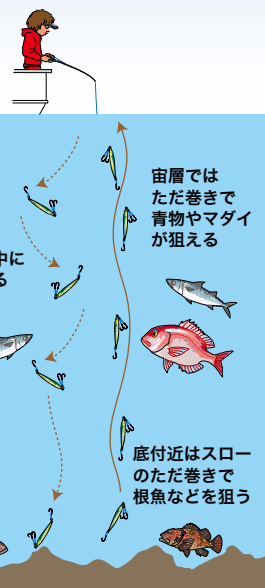
ワンピッチジャーク



ワンピッチジャーク+ただ巻き



ただ巻き



#Howto 先生が教える基本釣法

誘いは自由な発想

●様々な魚を狙えるのがSLJ。何をターゲットとするかによって、狙う層やアクションが変わってくる。もっとも手堅いのは根魚。「そこいければ食ってくる」という素直なキャラクターなので、とくに広布号のようにドテラ流しをしてくれると「根魚の巣」に当たる確率が高い。着底したらずぐ2~3回素早くリールして根掛かりを回避し、魚にじっくりとジグを見せるイメージでスローに誘う。飛び上がってジグに食い付いてくれるので、底から10メートルはスローで。反応がなければワンピッチジャークに切り換える。目安は1秒間にリール1回転。途中でスピードを変えたり、竿をシャクるジャークの幅を変えたり、色んなアクションを試してみよう。マダイを狙うならただ巻きも効果的。まあ、結局は「釣れたモノ勝ち」で自由度が高い釣りだから、一つのパターンにこだわらず、思いついたことをなんでもやってみよう。反応があればそれが正解だ!

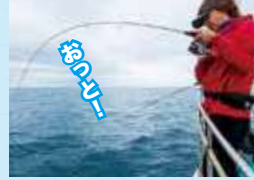
#Notice 生徒なりのお気付きポイント

体力的余裕がサイコー!

●力説したいのは、圧倒的にフィジカルがラクだということだ。当日は午前船でカタがついたが、「なんなら午後も乗っちゃおう〜?」という勢いだったのは、疲れていなかったからだ。体力に余裕がある分、「色んなアクションをやってみよう」と思える。だから単調にもならず、シブかったとは言え飽きることがなかった。サバを2、3尾釣って、最後の最後にサンバクがダウン! 竿が根本からヒン曲がるスリリングなヤリトリはライトタックルならではの。オレにでも釣れたということは、だれにでも釣れるということ(マジ)。ぜひ外房の海の豊かさを体感してほしい!



▲基本的に向こう合わせでハリ掛かりするが、フックサイズが小さいので念のため大きく合わせる



▲ライトタックルならではのスリリングなヤリトリ

ヨッシーの竿が大きく曲がる。30センチほどのイサキだ。SLJでは立派なターゲットだが、大原沖ではコマセで釣っているため、なかなかジグを追ってこない。「やる気のある群れに当たったのかな。めっちゃアタックしてきたよ(笑)」

ポツリ、ポツリと魚の姿が見えるが、もうひとつテンションが上がらない。

と……

お客さんたちの竿が次つぎに引き絞られた。サバの群れだ! 丸まると太った良型のコマサバが次つぎに上がる。歓声上がり、広布号が一気に賑わう。

外道扱いされることの多いサバだが、ライトタックルだとこれほど面白いターゲットもない。グンニヤリと曲がる竿。走るサバ。テンションはマックスだ!

多少のオマツリは発生しても、そこはお互いさま。広布号は野島幸一船長の積極的な声かけもあって雰囲気がよく、トラブルも起こらない。イナダとワラサの中間ぐらいの大きさ、当地でサンバクと呼ばれるサイズも上がり、大いに盛り上がった。

午前11時の沖揚がりを迎える直前、「あつ、ちょっと待って! 群れ入ってきた。もう1回落としてみて」と野島船長。最後の最後にサンバクを釣ったのは、なんてこった、タカハシゴーその人であった。SLJ、タックルはライトでもドラマはビッグである。